



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア：反体制派向け軍事援助の一端

シリアでは、2014年2月に「ジュネーブ2」会議が成果をあげることなく閉幕し、その後政府軍の攻勢が戦果を上げたことを受け、アメリカをはじめとする諸外国による反体制派武装勢力向けの援助が活発化している。この問題についての関係報道の概要は以下の通り。

- (アメリカ製対戦車ミサイルである) TAW600 発を含む多種多様な兵器が反体制派に送られた。受け取り手は「ハズム運動」なる団体で、同派には12の武装集団が参加しており、かつて「自由シリア軍」の報道官だったルアイ・ミクダードの影響下にある。
- アメリカ政府は、シリアに隣接する諸国で訓練を受ける反体制派戦闘員の数を、1カ月あたり300人から600人に増やすこと等を含む軍事専門家の増員や、諜報情報の提供拡大を決定した。また、アメリカは中東地域の諸国が大量の通常兵器、通信機器、対戦車兵器を反体制派に送ることを容認した。しかし、アメリカ政府は携帯式の対空ミサイルを反体制派に供給することには同意しなかった。
- アメリカ政府が反体制への軍事援助を漸増することには、二つの目的がある。第一は、シリア政府を移行政体編成のための協議に入らせるために、戦場での軍事的均衡を変えることである。第二は、穏健な反体制派を支援し、彼らとイスラーム過激派との勢力のバランスを変えることである。

(以上4月8日付『ハヤート』)

- TAW ミサイルを入手したのは、2014年初頭に「ハズム運動」に加入した「北部のファールーク部隊」である。「ハズム運動」はトルコの諜報機関に完全に従属している。また、サウジはアメリカとの間でTAW ミサイル1000発を19億ドルで購入する契約を締結している。
- TAW ミサイルのような兵器が供給されているのは、「イラクとシャームのイスラーム国」も「ヌスラ戦線」も存在しない、イドリブ県の地方部である。この地域には、現在ムスリム同胞団と親しい諸派がいる。

(以上8日付シリアの民間紙『ワタン』)

なお、8日付『ハヤート』紙などは、アサド大統領が先ごろ会見したロシアの訪問団に対し、「戦闘が活発な段階は1年ほどで終わるだろう」との見通しを示したと報じた。同様に、7日の『サフィール』紙はヒズブッラーのナスルッラー書記長が「政権打倒計画の段階は終わった。・・・彼らは政権の打倒も消耗戦もすることはできない」と述べ、シリア情勢の展望に自信を示したと報じた。現時点での戦況は政府軍優位で確定しており、これを反体制派武装勢力の一部への支援を積み増すことで変更を図る試みは、成算が低いと思われる。なぜなら、シリア紛争をめぐる政治・軍事情勢が現状に至った原因の多くは、大同団結にも民心の掌握にも失

敗した反体制派と、中途半端な援助や干渉を繰り返す諸外国の責任に帰すべきものだからである。反体制派武装勢力の一部を強化して軍事的な均衡の変化を期待する支援のあり方は、戦争状態の終結にも、人民の権利や生活水準を向上させるような政治体制の樹立にも資するものではない。反体制派武装勢力がトルコから出撃し、これまで戦火にさらされていなかったラタキア県北端のカサブ地域に侵攻した事例は、諸外国の反体制派支援からシリア人民の安寧という観点が完全に欠落している証左とも言える。戦場での戦術的勝利を第一義とする諸外国による反体制派支援は、シリアの紛争解決・人民の安寧と言う観点からはその意義を喪失しつつある。

(高岡研究員)

---

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799